



北極圏・野生生物保護区をみんなで守ってこう

いのちが生まれる聖地
グチャン女性は語る

映画概要

取材：2010年
放映時間 20分

アラスカ北東部に位置する広大な野生生物保護区。この北極海沿岸は、カリブー（トナカイ）が、子を産み、育てる場所となっています。カリブーを糧とし、何千年も生きてきた先住民族グチャンはここを、「いのちが生まれる聖地」と呼び、昔から近寄ることもなく厳重に保護してきました。

しかし、1986年以来、ここは石油採掘の危機にさらされています。グチャンはこの聖地を永遠に守るため、アメリカ政府を相手に、保護活動を行っています。

この短編映画は、グチャン民族、カリブー、先住民としての生き方、そしてこの聖地を、これまで聞く耳をもたれなかったグチャン女性の視点から描きます。そして、世界中の人々に、この聖地を一緒に守っていくことを呼びかけます。

映画普及、
オンライン署名に
ご協力ください

DVD 配給や講演を通して、アメリカ国内及び世界各地で、グチャン民族について知ってもらい、グチャンの聖地保護運動に人々が共感し、協力できるよう、映画を広めています。

DVD は英語、スペイン語、日本語字幕付き。DVD 特典の監督インタビュー、グチャン女性のエキストラ・インタビューも含まれています。お問い合わせは、以下の連絡先までよろしくお願い致します。映画サイトではオンライン署名を集めています。署名にご協力ください。

会田 民穂（あいだみほ）

E-mail: mail@mihoaida.com
映画サイト: mihoaida.com/gwichin



制作・監督 会田民穂



いのちが生まれる聖地
グチャン女性は語る



北極圏・野生生物保護区をみんなで守ってこう

www.mihoida.com/gwichin

グチャンの長老たちは言った。

「正しいやり方で、妥協をせずに、一致団結せよ。」

福島を、アラスカでは
繰り返さない。絶対に。

2011年3月に起きた福島第一原発事故は、福島の住民に壊滅的な影響を与えています。私たちの命を支える海、水、空気、土壌そして食物が汚染され、日本を越え世界の深刻な環境問題となりました。もし、石油採掘がグチャン民族の聖地で行われれば、先住民の人権侵害のみにとどまらず、福島での悲劇が繰り返される可能性があります。なぜなら、石油を輸送するためのパイプラインや石油採掘技術の安全性が問われているからです。事実、メキシコ湾での石油流出事故は、自然環境と住民の生活をどれほど脅かすものなのかということをはっきりとしました。

未来の子どもたちが安心して暮らせる環境を残していくことは、誰だって考えることです。そのような視点でこの映画を見れば、遠いアラスカでの人権・環境運動も、身近に感じることができます。

グチャン民族についてもっと知りたい！日本の先住民族は今、どうしている？ 自分の周りの人権や環境運動って、何？ 自分には、何ができる？ などを、この映画を見て考えるきっかけになってくれれば良いと思っています。そして、映画の中の女性達のように、たくましく声を挙げて立ち上がる勇気を、あなたに与えることができれば良いと願っています。

みんなつながっているのです。

だから、守らなきゃ。



監督紹介

会田民穂（あいだみほ）。1971年東京都生まれ。北海道大学大学院、地球環境科学研究科、博士課程中退。アメリカ留学後、カリフォルニアのゴールデンゲート国立公園内にあるNPOで、環境教育者として活動。その傍ら、2008年から、環境保護運動やアドベンチャースポーツに取り組む世界中の有色人種の女性を取材。彼女たちの視点からみた環境や人権保護のジャーナリズムの世界に入る。2010年からは、映画製作にも励む。初のドキュメンタリー、「いのちが生まれる聖地・グチャン女性は語る」は、2013年のアメリカ先住民映画祭で、最優秀短編ドキュメンタリー賞候補に選ばれた。2014年ボストン近郊で行われたアースポート映画祭では、観客が選ぶ最優秀映画賞を受賞。